

今年の秋サケ来遊見通しについて

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

昨年（R4年）の来遊状況

令和4年（2022年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は3,347万尾と平成27年以降7年ぶりに3,000万尾を上回りました（前年比179.6%、図1）。年齢別にみると、4年魚（平成30年生まれ）は2,368万尾（前年比224.2%）と5か年平均（H23～27年）と同水準まで回復しました。一方、5年魚（平成29年生まれ）は230万尾（前年比51.4%）と5か年平均（H23～27年）の15%程度に留まりました。また、3年魚（R1年生まれ）は728万尾と平成以降で最も多い来遊数となりました。以上より、昨年の来遊数の回復には4年魚の伸長が大きく影響し、さらに3年魚が好調であったためと考えられました。

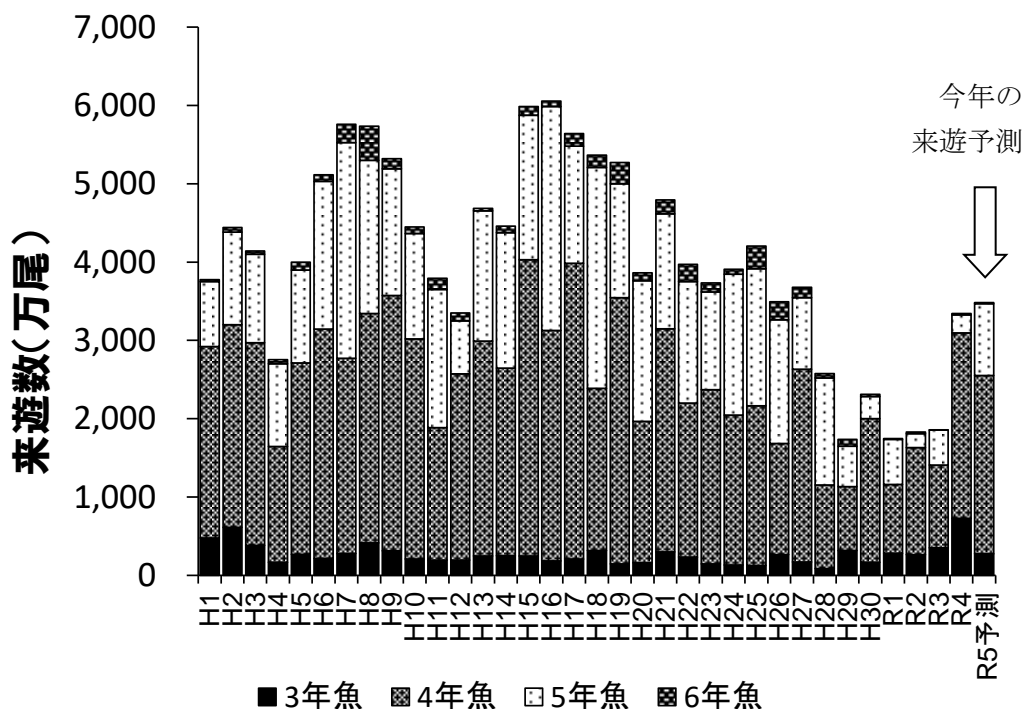


図1 最近の北海道へのサケの（年齢別）来遊数の推移

今年の来遊の見通し

今年（令和5年）の全道への来遊数は3,483万尾と予測され、昨年を若干上回る程度となっています（図1）。昨年の4年魚が平成27年以前の水準まで回復したものの、近年の若齢での回帰を考慮し、今年の5年魚は917万尾と5か年平均（H23～27年）の62.9%に留まる見込みとなっています。また、昨年の3年魚が728万尾と平成以降で最も多い来遊数となったものの、若齢での回帰を考慮し、今年の4年魚は2,275万尾と昨年と同程度の来遊見込みとなっています。

地区別の来遊予測値については、北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場のホームページをご覧ください（<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hatch/index.html>）。